

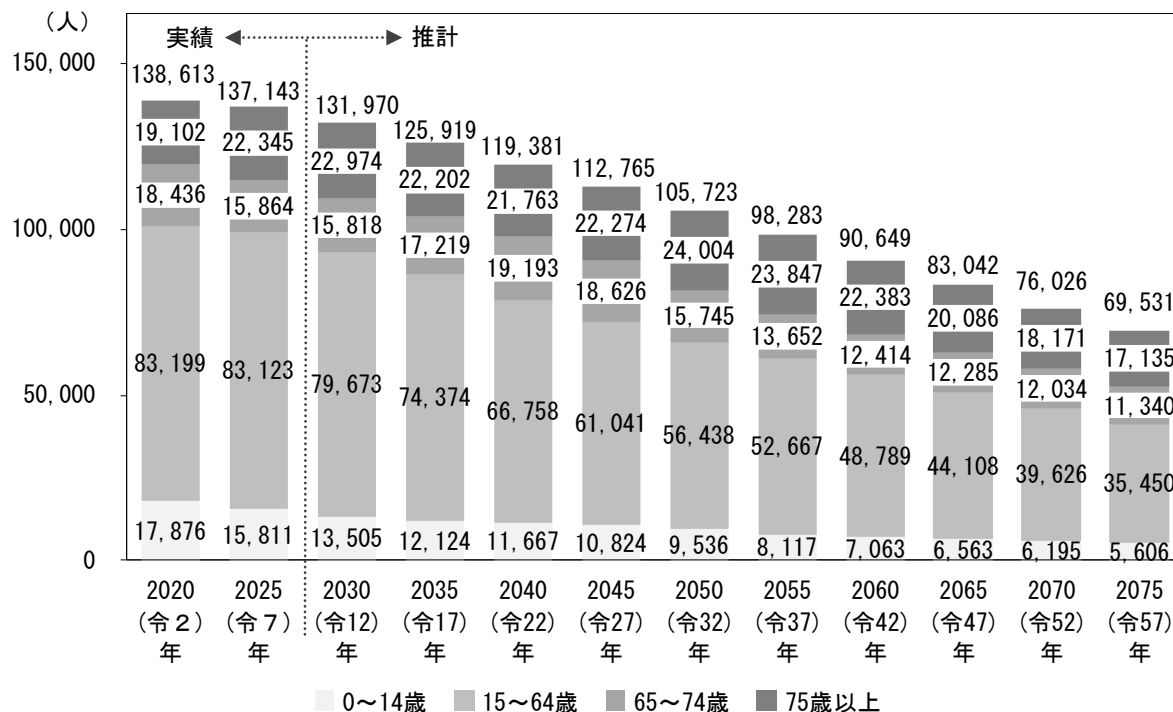
〇桑名市の高齢者の現状

1 人口の推移（現状と推計）

(1) 人口の推移

- ▶本市の総人口は、2025（令和7）年9月30日現在、137,143人です。2020（令和2）年から5年間で1500人弱減少しています。2030（令和12）年以降の推計においても減少し続けると予測されます。
- ▶年齢区分別にみると、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）は、今後も減少していきます。
- ▶高齢者人口（65歳以上）は、年々増加し続け、2040（令和22）年には40,956人（65～74歳：19,193人＋75歳以上：21,763人）とピークを迎えますが、75歳以上人口はさらに2050（令和32）年まで増加を続けます。

図表 1 人口の推移



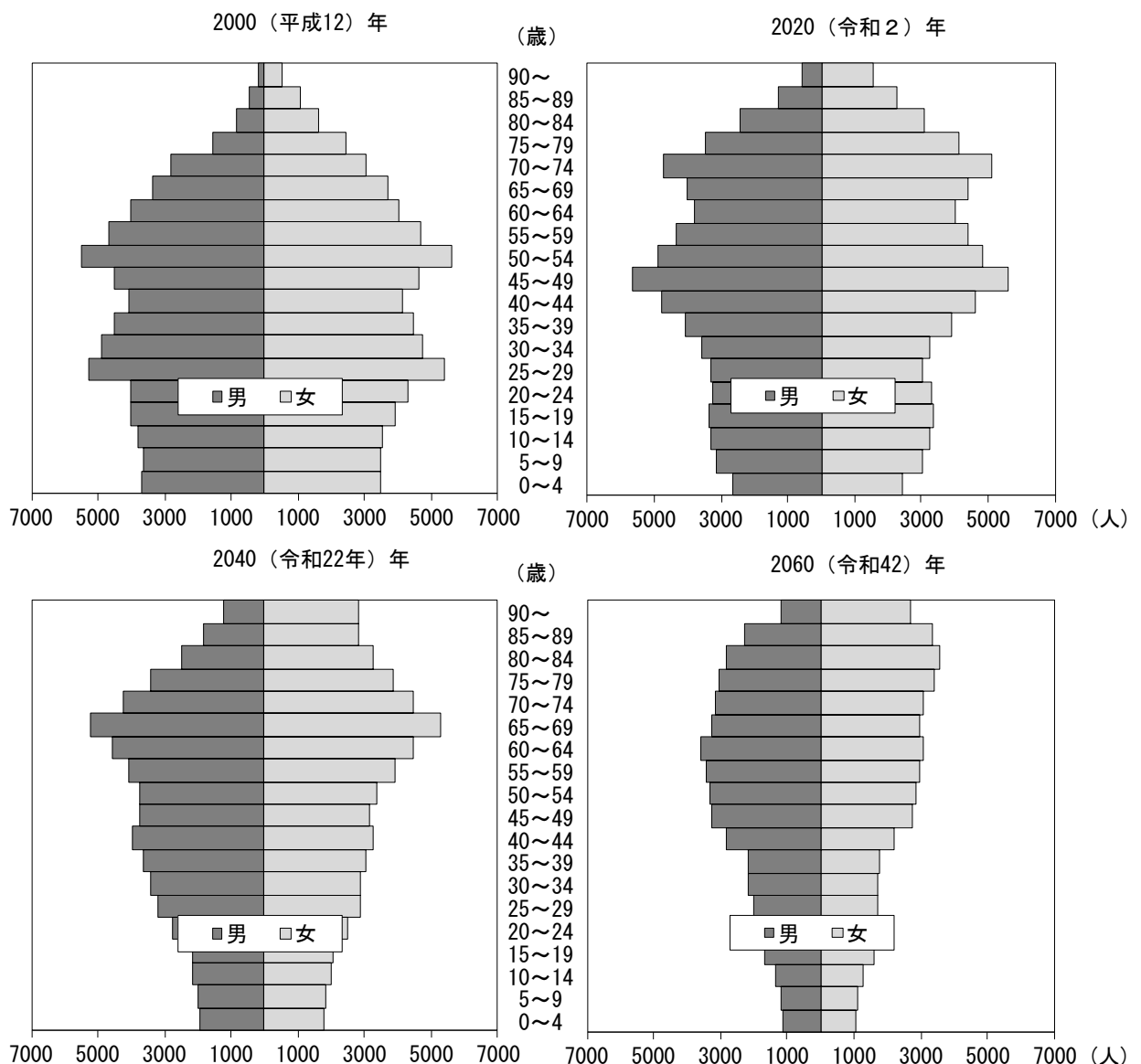
注：2020（令2）年は不詳補完値

資料：2020（令2）年は国勢調査、2025（令7）年は住民基本台帳人口、2030（令12）～2075（令57）年はコーホート法による推計（基礎データ：2020（令和2）年及び2025（令7）年は9月30日現在の住民基本台帳人口）

(2) 人口ピラミッド

- ▶2020（令和2）年時点では、団塊ジュニア世代を含む45～49歳が最も多くなっています。
- ▶2040（令和22）年には、団塊ジュニア世代が65歳以上となり、85歳以上の女性が多くなる一方、生産年齢人口及び年少人口が少なく不安定な形状となります。

図表2 人口ピラミッド

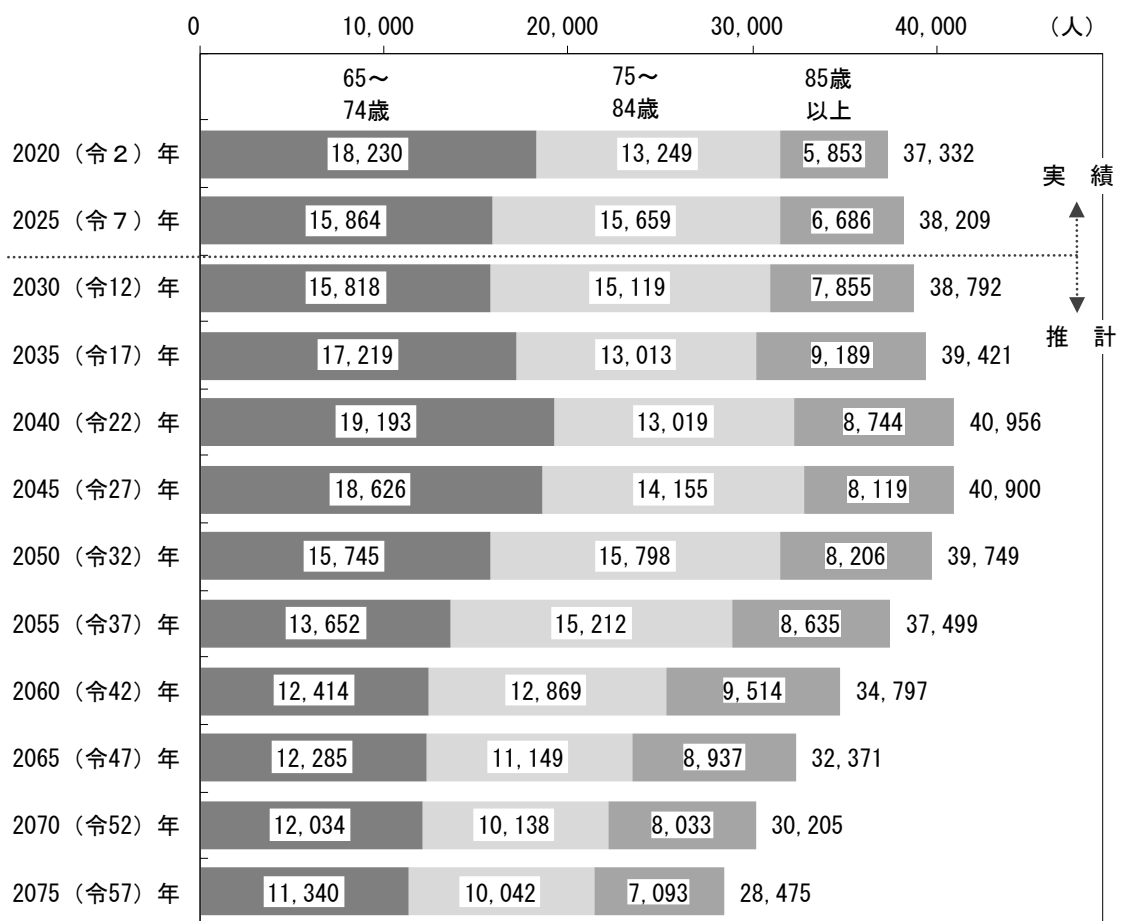


資料：2000（平12）及び2020（令2）年は国勢調査、2040（令22）及び2060（令42）年はコーホート法による推計（基礎データ：2020（令和2）年及び2025（令7）年は9月30日現在の住民基本台帳人口）

(3) 高齢者人口の推移

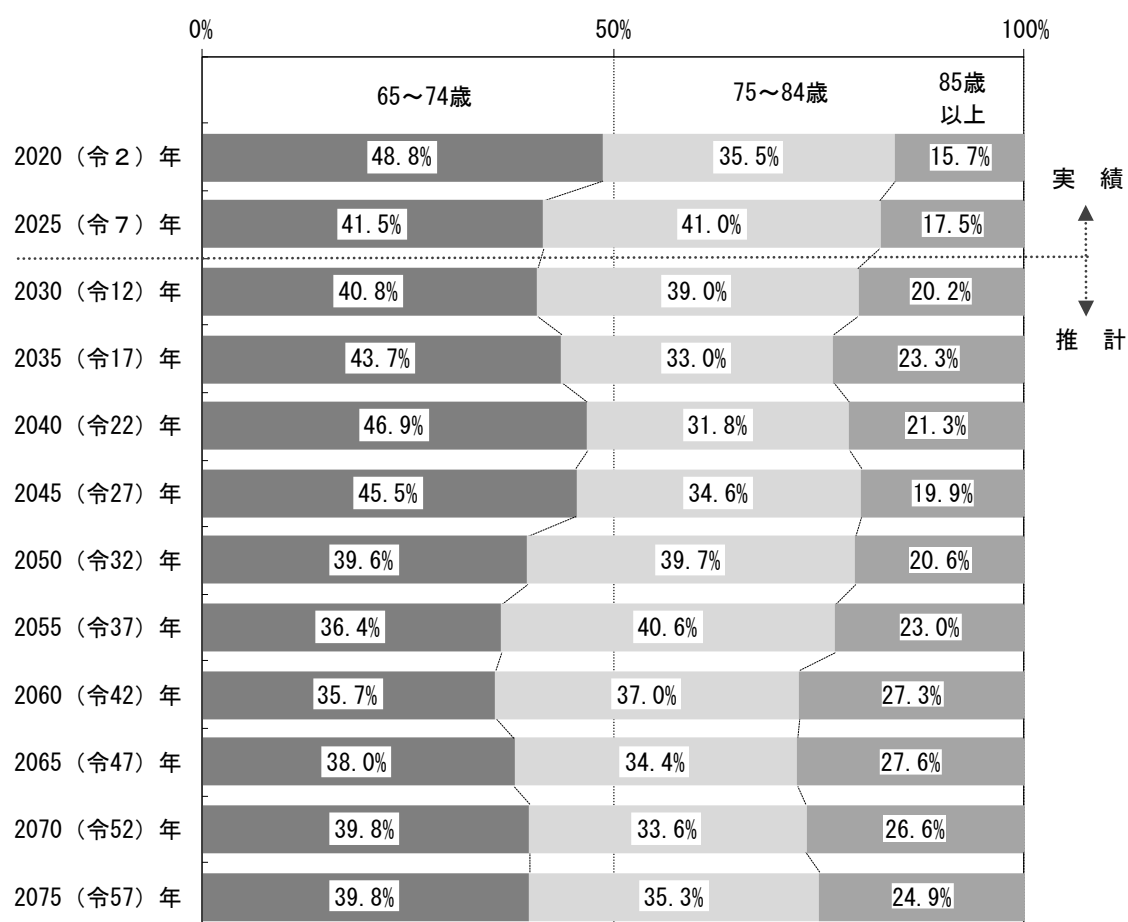
- ▶本市の高齢者人口（65歳以上人口）は、2025（令和7）年9月30日現在、38,209人で、今後、ピークの2040（令和22）年には40,956人、1.07倍に増加することが見込まれています。
- ▶介護のニーズが高くなると言われている85歳以上の人口は、ピークの2060（令和42）年には2025（令和7）年の1.42倍の9,514人になる見込みです。

図表3 高齢者人口の推移



資料：2020（令和2）年は国勢調査、2025（令和7）年は住民基本台帳人口、2030（令和12）～2075（令和57）年はコーホート法による推計（基礎データ：2020（令和2）年及び2025（令和7）年は9月30日現在の住民基本台帳人口）

図表4 65～74歳、75～84歳、85歳以上人口の構成比の推移



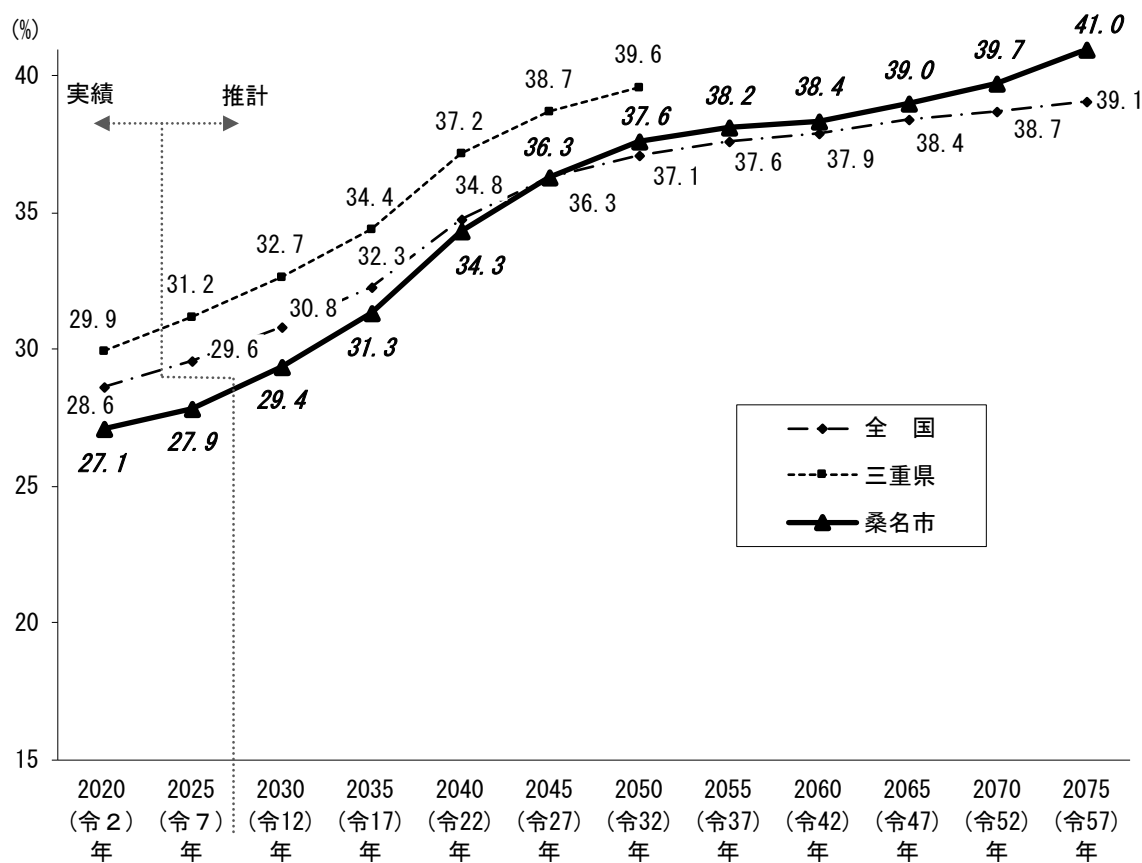
資料：2020（令2）年は国勢調査、2025（令7）年は住民基本台帳人口、2030（令12）～2075（令57）年はコーホート法による推計（基礎データ：2020（令2）年及び2025（令7）年は9月30日現在の住民基本台帳人口）

(4) 高齢化率の推移

▶本市の高齢化率は、2025（令和7）年9月30日現在、27.9%です。全国及び三重県と比較すると、全国を1.7ポイント、三重県を3.3ポイント下回っています。推計によると、今後も右肩上がりに上昇を続け、2075（令和57）年には41.0%になると予測されます（図表5）。

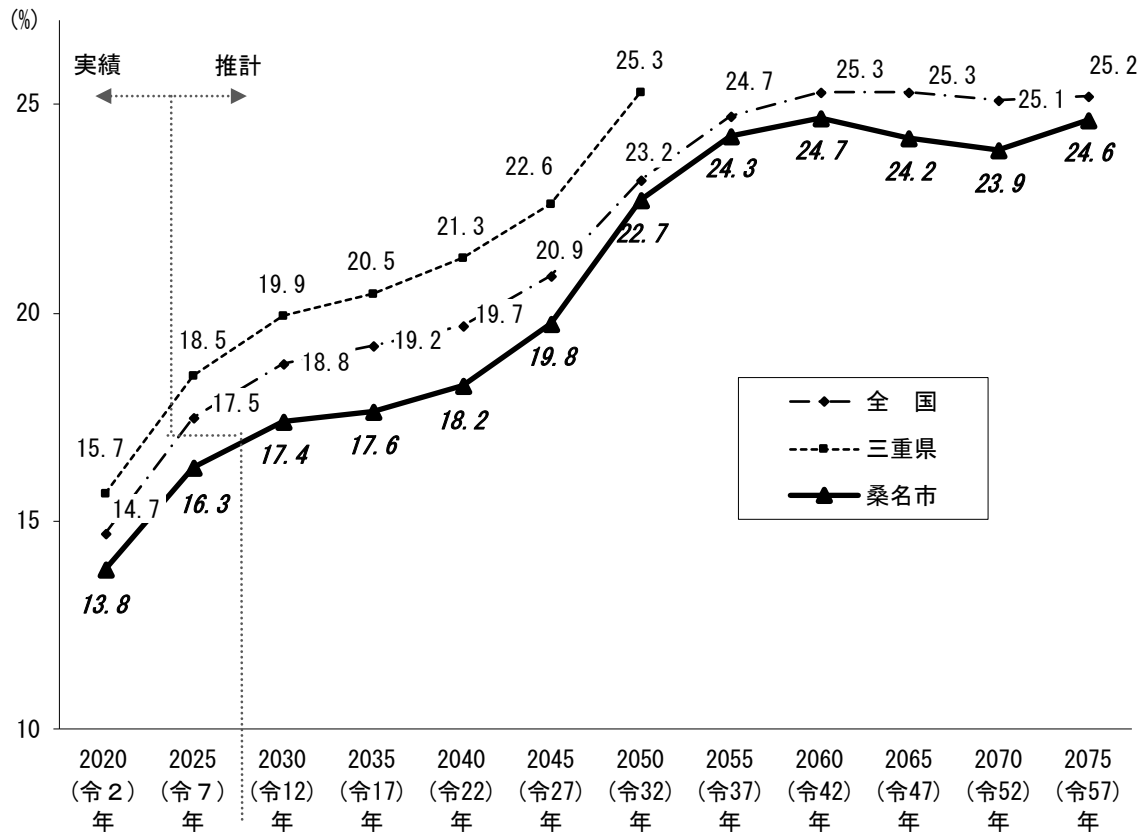
▶本市の総人口に占める75歳以上人口の割合（後期高齢化率）は、2025（令和7）年9月30日現在、16.3%です。全国及び三重県と比較すると、全国を1.2ポイント、三重県を2.2ポイント下回っています。推計によると、後期高齢化率は、2060（令和42）年にピークを迎え24.7%となります（図表6）。

図表5 高齢化率の推移



資料：2020（令2）年は国勢調査、2025（令7）年の本市は住民基本台帳人口、2030（令12）～2075（令57）年の本市はコーホート法による推計（基礎データ：2020（令2）年及び2025（令7）年は9月30日現在の住民基本台帳人口）、2025（令7）～2075（令57）年の全国は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（令和5年推計）」、2025（令7）～2050（令32）年の三重県は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

図表 6 後期高齢化率の推移

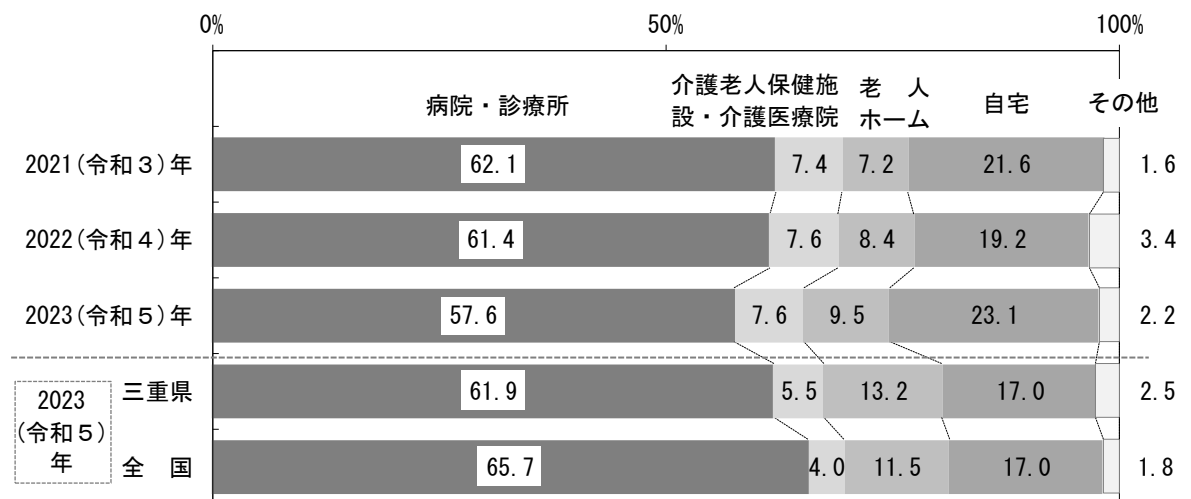


資料：2020（令2）年は国勢調査、2025（令7）年の本市は住民基本台帳人口、2030（令12）～2075（令57）年の本市はコーホート法による推計（基礎データ：2020（令2）年及び2025（令7）年は9月30日現在の住民基本台帳人口）、2025（令7）～2075（令57）年の全国は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（令和5年推計）」、2025（令7）～2050（令32）年の三重県は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

(5) 死亡の場所

- ▶2023（令和5）年の死亡数を死亡の場所別にみると、病院・診療所が57.6%を占めています。次いで自宅が23.1%、老人ホームが9.5%、介護老人保健施設・介護医療院が7.6%となっています。
- ▶2021（令和3）年に比べ、病院・診療所が4.5ポイント低下し、自宅が1.5ポイント、老人ホームが2.3ポイント上昇しています。
- ▶本市は、全国及び三重県に比べ、自宅、介護老人保健施設が高く、特に自宅は6.1ポイントの差があります。

図表7 死亡の場所

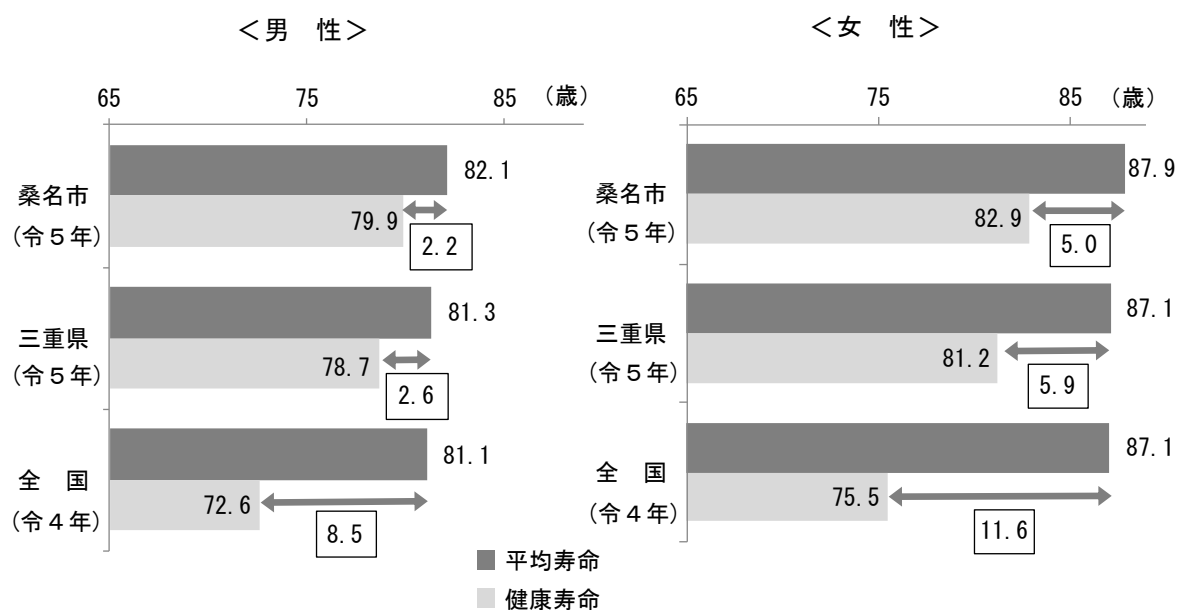


資料：人口動態統計

(6) 平均寿命・健康寿命

- ▶三重県の推計によると、本市の平均寿命は、男性が82.1歳、女性が87.9歳、健康寿命は、男性が79.9歳、女性が82.9歳となっています。
- ▶平均寿命と健康寿命の差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味しますが、本市は、男性が2.2年、女性が5.0年であり、三重県に比べ、男性が0.4年、女性が0.9年短くなっています。

図表 8 平均寿命・健康寿命



※健康寿命：①全国は「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」
 ②三重県及び桑名市は「介護保険法による介護認定（介護サービス）を受けることなく自立して心身ともに健康的な日常生活を営むことができる期間」

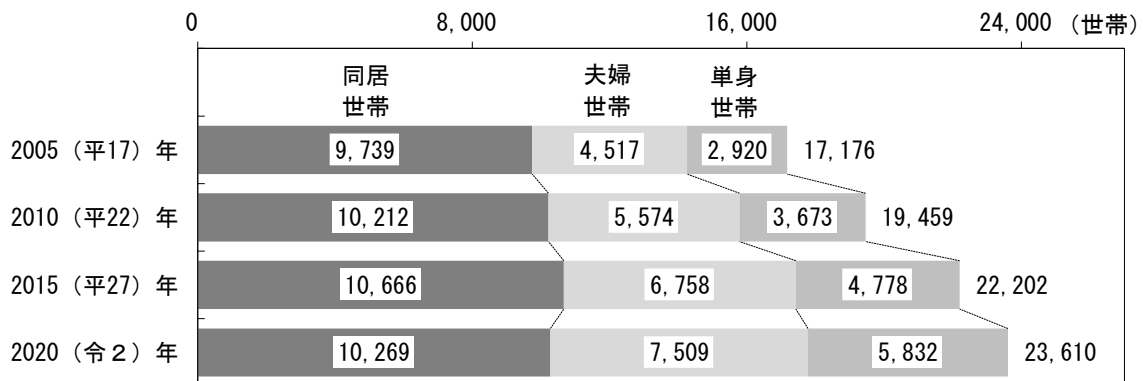
資料：桑名市及び三重県は「みえの健康指標・健康寿命」、全国は厚生労働科学研究「次期健康づくり運動プラン作成と推進に向けた研究」（2024（令和5）年3月公開）

2 世帯の現状

(1) 高齢者のいる世帯の状況

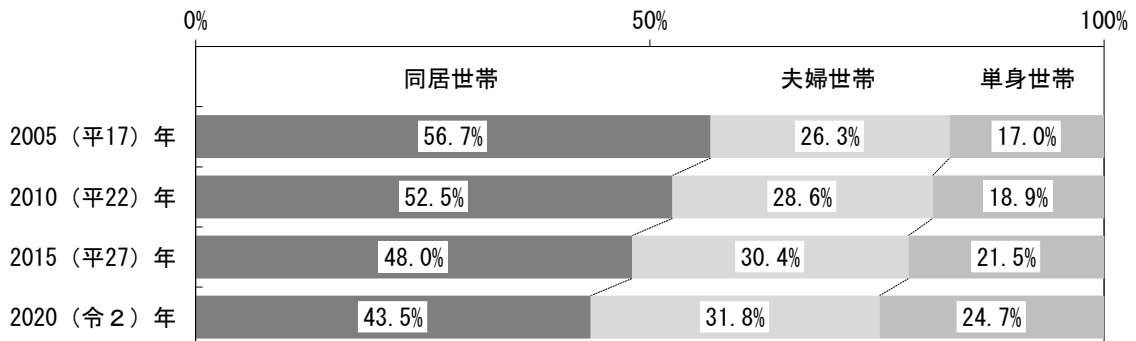
- ▶ 高齢者のいる世帯は、2020（令和2）年の国勢調査によると23,610世帯となっており、2005（平成17）年から15年間で6,434世帯増加し約1.4倍になっています。
- ▶ 世帯類型別にみると、高齢夫婦世帯（夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯）は4,517世帯から7,509世帯、約1.7倍に、高齢単身世帯は2,920世帯から5,832世帯、約2倍に増加となっています（図表9）。
- ▶ 比率でみると、高齢夫婦世帯及び高齢単身世帯が高くなります。高齢者以外の家族との同居世帯は低下しています（図表10）。

図表9 高齢者のいる世帯の推移



資料：国勢調査

図表10 高齢者のいる世帯の類型割合の推移



資料：国勢調査

(2) 高齢単身世帯

▶年齢別にみると、85歳以上が22.2%と最も高く、75歳以上の合計は60.1%にのびります。

図表 11 高齢単身世帯の性・年齢別

単位：世帯

区 分	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85歳 以上	計
計	1,057	1,267	1,174	1,037	1,297	5,832
	18.1%	21.7%	20.1%	17.8%	22.2%	100.0%
男性	510	524	341	230	280	1,885
女性	547	743	833	807	1,017	3,947

資料：国勢調査（2020（令和2）年）

(3) 高齢夫婦世帯

▶高齢夫婦世帯を夫婦の年齢別にみると、夫婦ともに75歳未満の世帯が49.8%を占めていますが、夫婦ともに75歳以上の世帯が30.4%（2,285世帯）あります。

図表 12 高齢夫婦世帯

単位：世帯

区 分		妻						計
		60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85 歳以上	
夫	65～69 歳	706	738	89	9	—	—	1,542
	70～74 歳	189	1,041	974	71	11	1	2,287
	75～79 歳	9	136	1,100	552	37	8	1,842
	80～84 歳	3	5	132	723	301	21	1,185
	85 歳以上	1	1	8	87	304	252	653
	計	908	1,921	2,303	1,442	653	282	7,509

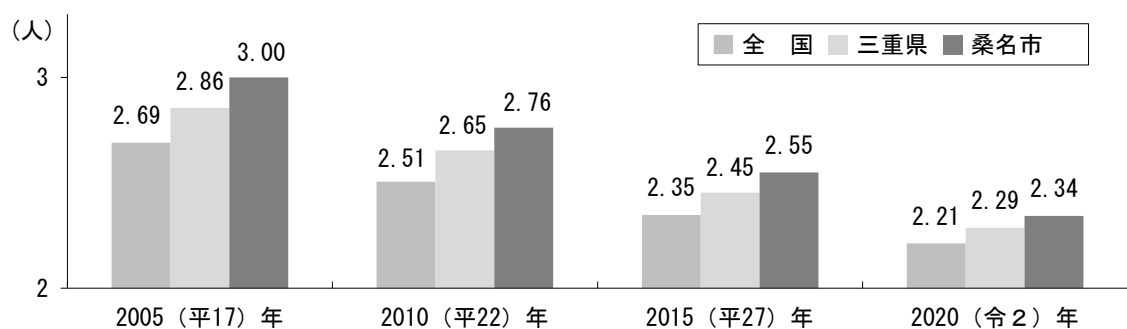
区 分		妻		計
		60～74 歳	75 歳以上	
夫	65～74 歳	3,737 (49.8%)	92 (1.2%)	3,829 (51.0%)
	75 歳以上	1,395 (18.6%)	2,285 (30.4%)	3,680 (49.0%)
	計	5,132 (68.3%)	2,377 (31.7%)	7,509 (100.0%)

資料：国勢調査（2020（令和2）年）

(4) 高齢者のいる世帯の平均世帯人員

- ▶本市の高齢者のいる世帯の平均世帯人員は、2020（令和2）年では2.34人となっており、全国及び三重県を上回っています。
- ▶2005（平成17）年以降の推移をみると、世帯規模は縮小しており、高齢夫婦世帯及び高齢単身世帯の増加からわかるように、今後もこの傾向は続くことが予測され、家庭における介護力の低下は否めません。

図表 13 高齢者のいる世帯の平均世帯人員の推移

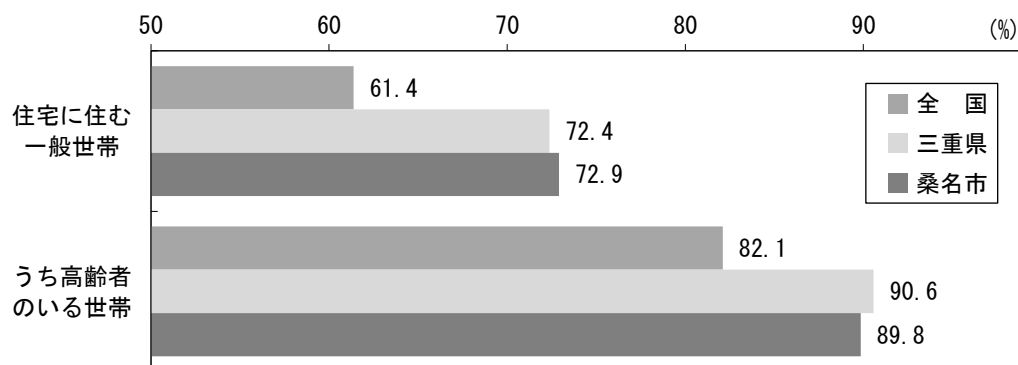


資料：国勢調査

(5) 住宅の状況（持ち家率）

- ▶桑名市の高齢者のいる世帯の持ち家率は89.8%となっており、一般世帯の持ち家率を15ポイント以上上回っています。
- ▶全国及び三重県との比較では、全国を7.7ポイント上回っており、ほぼ三重県と並んでいます。

図表 14 持ち家率



資料：国勢調査（2020（令和2）年）

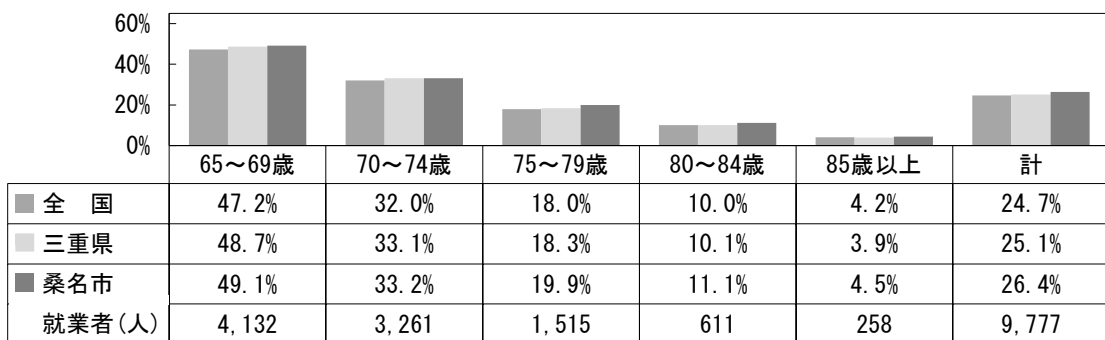
3 社会参加の現状

(1) 就業の状況

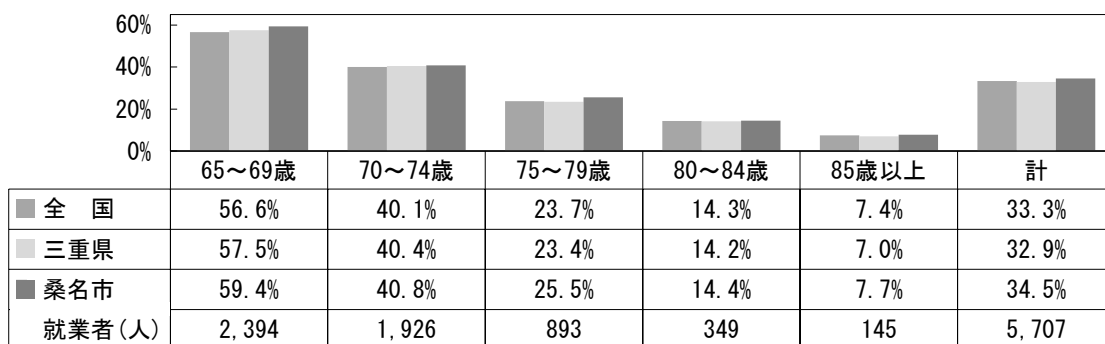
- ▶本市の65歳以上の就業者は9,777人、就業率は26.4%です。全国及び三重県と比較して、やや高くなっています。
- ▶性・年齢別にみると、男性の65～69歳では59.4%と過半数が、女性の65～69歳では39.7%と約4割が働いています。

図表 15 就業率

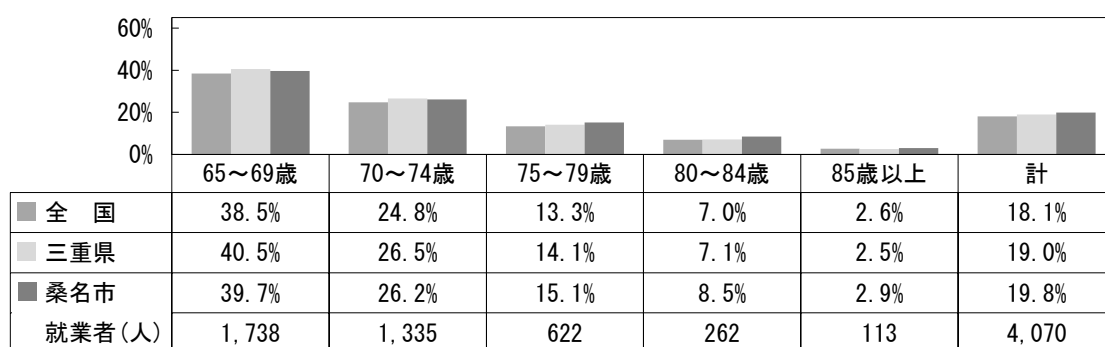
①全体



②男性



③女性

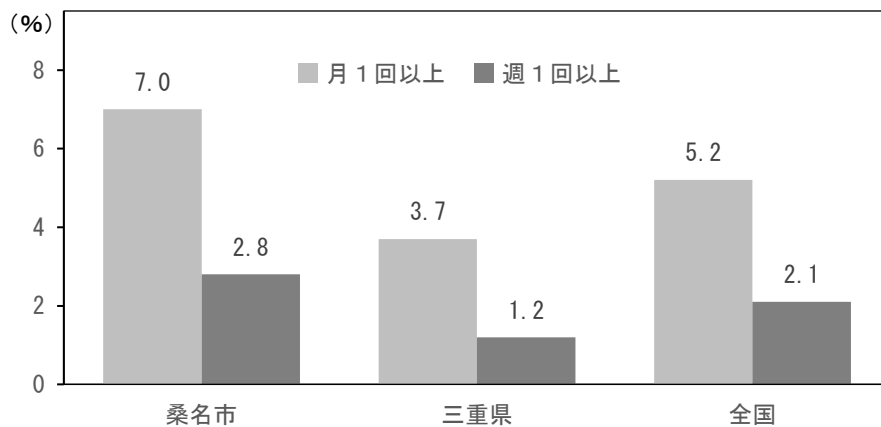


資料：国勢調査（2020（令和2）年）

(2) 「通いの場」の状況

- ▶介護予防に資する住民主体の「通いの場」の参加率をみると、桑名市は、月1回以上の参加率も、週1回以上の参加率も、全国及び三重県を上回っています。

図表 16 「通いの場」への参加率（2020（令和2）年）

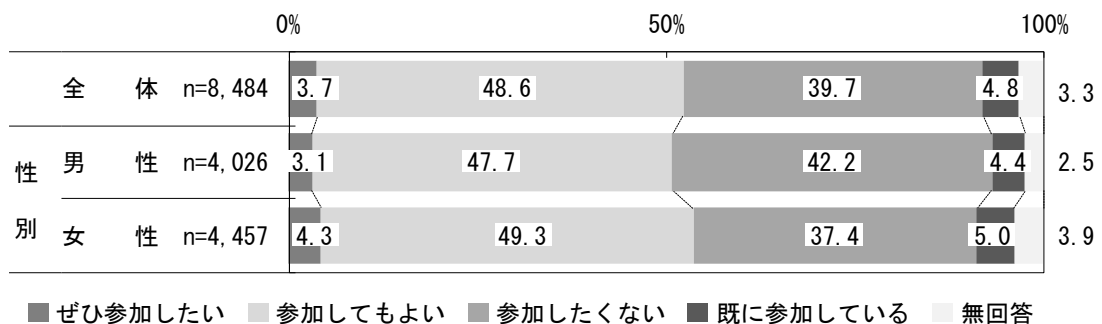


資料：地域包括ケア「見える化」システム（2026（令和8）年2月27日取得）

(3) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向

- ▶「桑名市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果から、地域住民主体の健康づくり活動や趣味等のグループ活動について、＜①参加者として＞と＜②企画・運営（お世話役）として＞の参加意向をみました。
- ▶＜①参加者として＞は、「ぜひ参加したい」が3.7%、「参加してもよい」が48.6%、「既に参加している」が4.8%となっており、これらを合計した参加意向は57.1%で、性別にみると、男性に比べ女性の参加意向が3.4ポイント高くなっています。

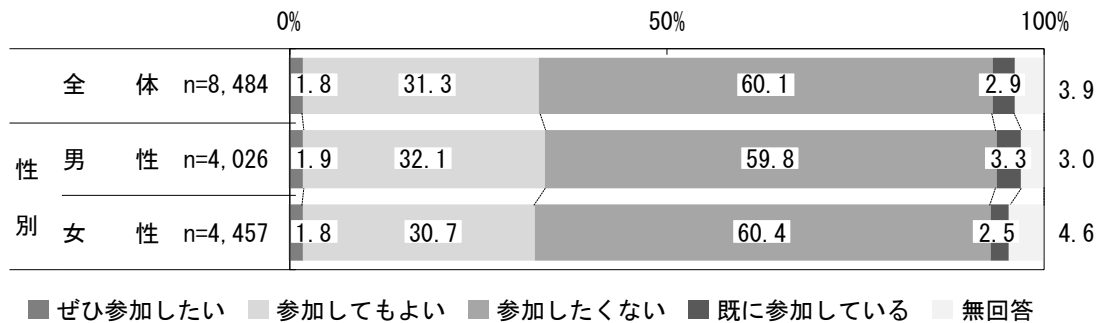
図表 17 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向＜①参加者として＞



資料：令和5年度桑名市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告書（令和6年3月）

▶<②企画・運営（お世話役）として>は、「ぜひ参加したい」が1.8%、「参加してもよい」が31.3%、「既に参加している」が2.9%となっており、これらを合計した参加意向は36.0%で、性別にみると、女性に比べ男性の参加意向が2.3ポイント高くなっています。

図表 18 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向<②企画・運営（お世話役）として>



資料：令和5年度桑名市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告書（令和6年3月）

(4) 会・グループ等への参加頻度

▶会・グループ等への参加頻度について、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合計した《参加している》人の割合は、⑦町内会・自治会が39.4%と最も高く、次いで⑧収入のある仕事が28.4%、③趣味関係のグループが22.9%、②スポーツ関係のグループやクラブが21.1%、①ボランティアのグループが9.6%、④学習・教養サークルが9.1%、⑥老人クラブが6.1%、⑨特技や経験を他者に伝える活動が5.5%、⑤介護予防のための「通いの場」が4.1%の順となっています。

▶①ボランティアのグループ、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会及び⑨特技や経験を他者に伝える活動は「年に数回」、③趣味関係のグループ、④学習・教養サークル及び⑤介護予防のための「通いの場」は「月に1～3回」、②スポーツ関係のグループやクラブは「週2～3回」、⑧収入のある仕事は「週4回以上」が最も高くなっています。

▶《週1回以上》が10%を超えているのは、⑧収入のある仕事及び②スポーツ関係のグループやクラブです。

図表 19 会・グループ等への参加頻度

単位：％

区 分					月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	《参加している》	参加していない	無回答
	週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	《週 1 回 以上》					
	n=8,484								
①ボランティアのグループ	0.4	0.7	1.2	2.3	3.3	4.0	9.6	72.4	17.9
②スポーツ関係のグループやクラブ	3.0	6.6	5.0	14.6	4.3	2.2	21.1	62.6	16.2
③趣味関係のグループ	0.9	2.9	3.8	7.6	10.7	4.6	22.9	61.2	15.8
④学習・教養サークル	0.3	0.9	1.1	2.3	4.3	2.5	9.1	72.1	18.8
⑤介護予防のための「通いの場」	0.2	0.5	1.0	1.7	1.4	1.0	4.1	76.5	19.3
⑥老人クラブ	0.0	0.2	0.3	0.5	1.5	4.1	6.1	74.9	18.9
⑦町内会・自治会	0.3	0.5	0.7	1.5	4.8	33.1	39.4	43.5	17.1
⑧収入のある仕事	16.4	8.2	1.1	25.7	1.6	1.1	28.4	54.8	16.8
⑨特技や経験を他者に伝える活動	0.4	0.8	0.7	1.9	1.3	2.3	5.5	74.6	19.8

(注) 『参加している』＝「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」

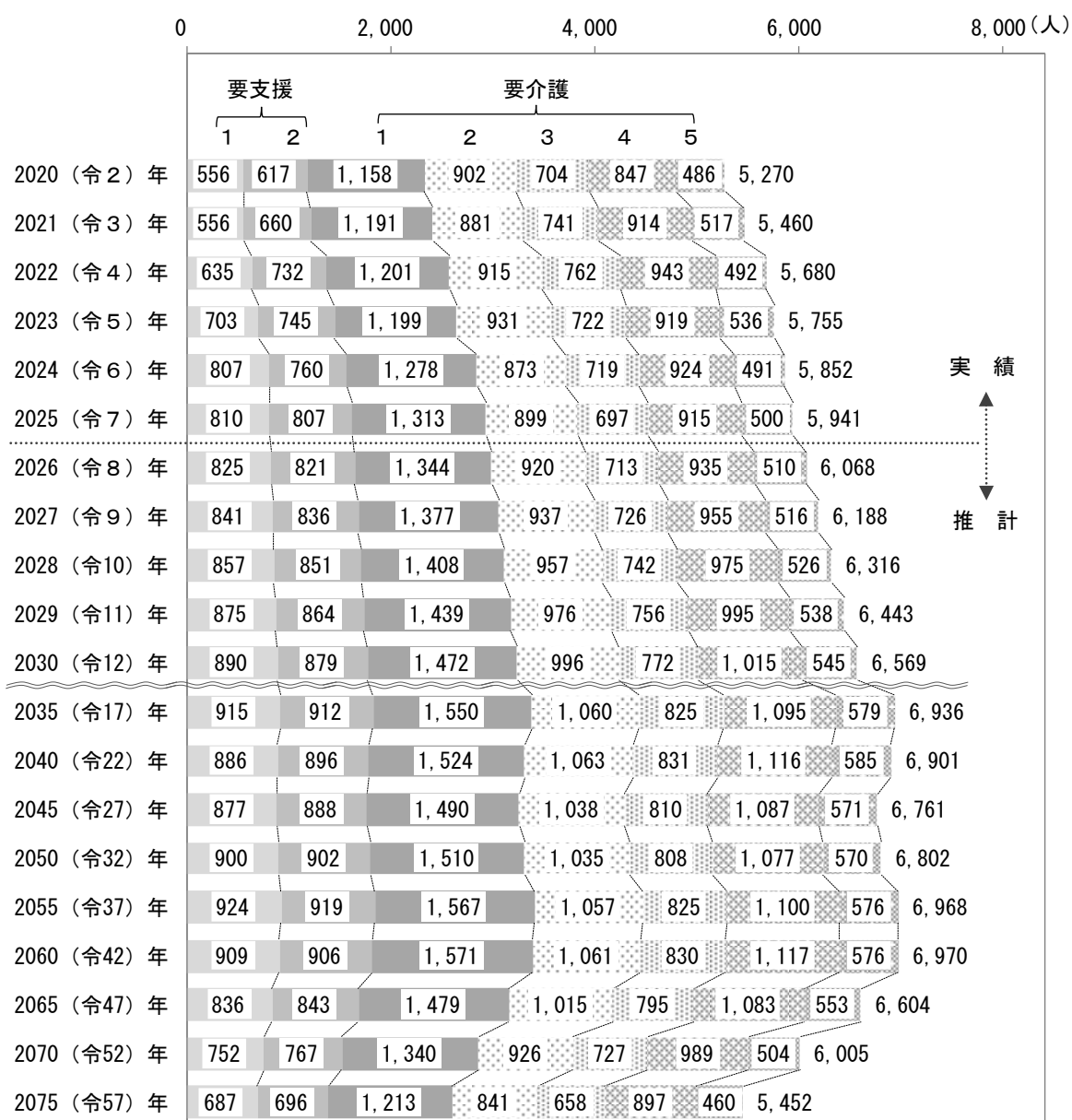
資料：令和5年度桑名市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告書（令和6年3月）

4 要支援・要介護認定者の推移（現状と推計）

(1) 認定者数の推移

- ▶2025(令和7)年9月末現在、本市の要支援・要介護認定者数は5,941人です。
- ▶推計（自然体）では、2035（令和17）年には、6,900人を超え、その後、増減を繰り返し、ピークの2060（令和42）年には現在の1.17倍、6,970人になると見込まれます。

図表20 認定者数の推移



資料：2018（平30）～2025（令7）年は介護保険事業状況報告（各年9月末現在）、2030（令12）～2075（令57）年は2025（令7）年9月末時点の要介護度別、性・年齢階層別認定率をもとに推計

▶2025（令和7）年9月末現在の要介護度別の認定者数と認定率をみると、65歳以上の第1号被保険者の認定者は5,831人、第1号被保険者の15.3%にあたります。また、75歳以上の認定者の割合は23.9%と、75歳以上のほぼ4人に1人が認定者となっています。

図表 21 要支援・要介護認定者数

単位：人

区 分	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
第 1 号被保険者	801	784	1,303	877	688	898	480	5,831
	2.1%	2.1%	3.4%	2.3%	1.8%	2.4%	1.3%	15.3%
65～74 歳	69	72	76	95	69	66	51	498
	0.4%	0.5%	0.5%	0.6%	0.4%	0.4%	0.3%	3.1%
75 歳以上	732	712	1,227	782	619	832	429	5,333
	3.3%	3.2%	5.5%	3.5%	2.8%	3.7%	1.9%	23.9%
第 2 号被保険者	9	23	10	22	9	17	20	110
計	810	807	1,313	899	697	915	500	5,941

注：下段は各人口に対する割合

（第1号被保険者数＝38,209人、65～74歳＝15,864人、75歳以上＝22,345人）

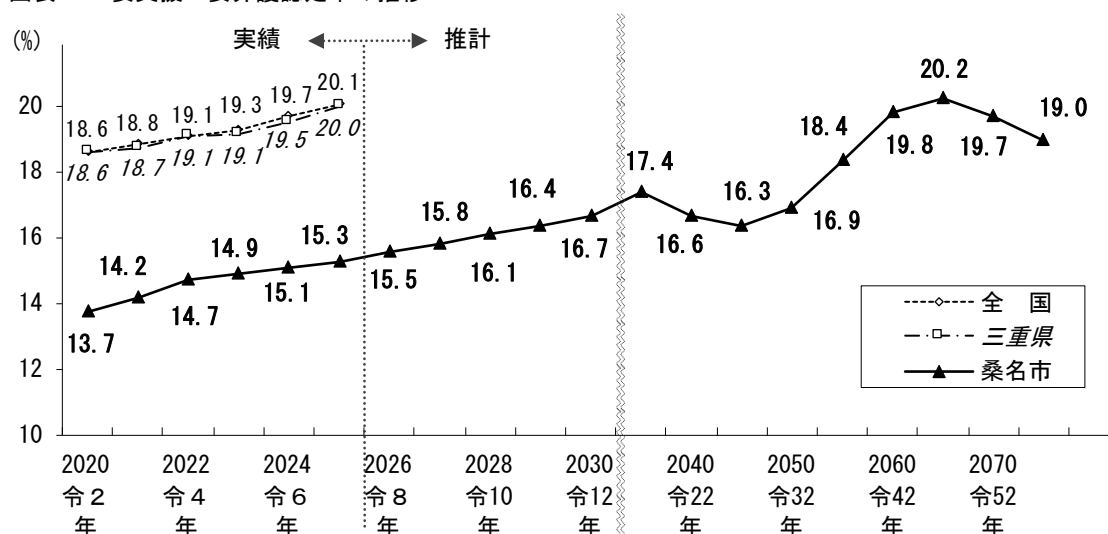
資料：認定者数は介護保険事業状況報告（2025（令和7）年9月末）、人口は2025（令和7）年は9月30日現在の住民基本台帳

(2) 要支援・要介護認定率の推移

▶2025（令和7）年9月末現在、本市の第1号被保険者数に対する65歳以上の認定者数の割合（認定率）は15.3%であり、全国平均より4.8ポイント、三重県平均より4.7ポイント低い率となっています。

▶推計（自然体）では、2065（令和47）年には20%を超えると見込まれ、ほぼ現在の全国、三重県平均のレベルとなります。

図表 22 要支援・要介護認定率の推移



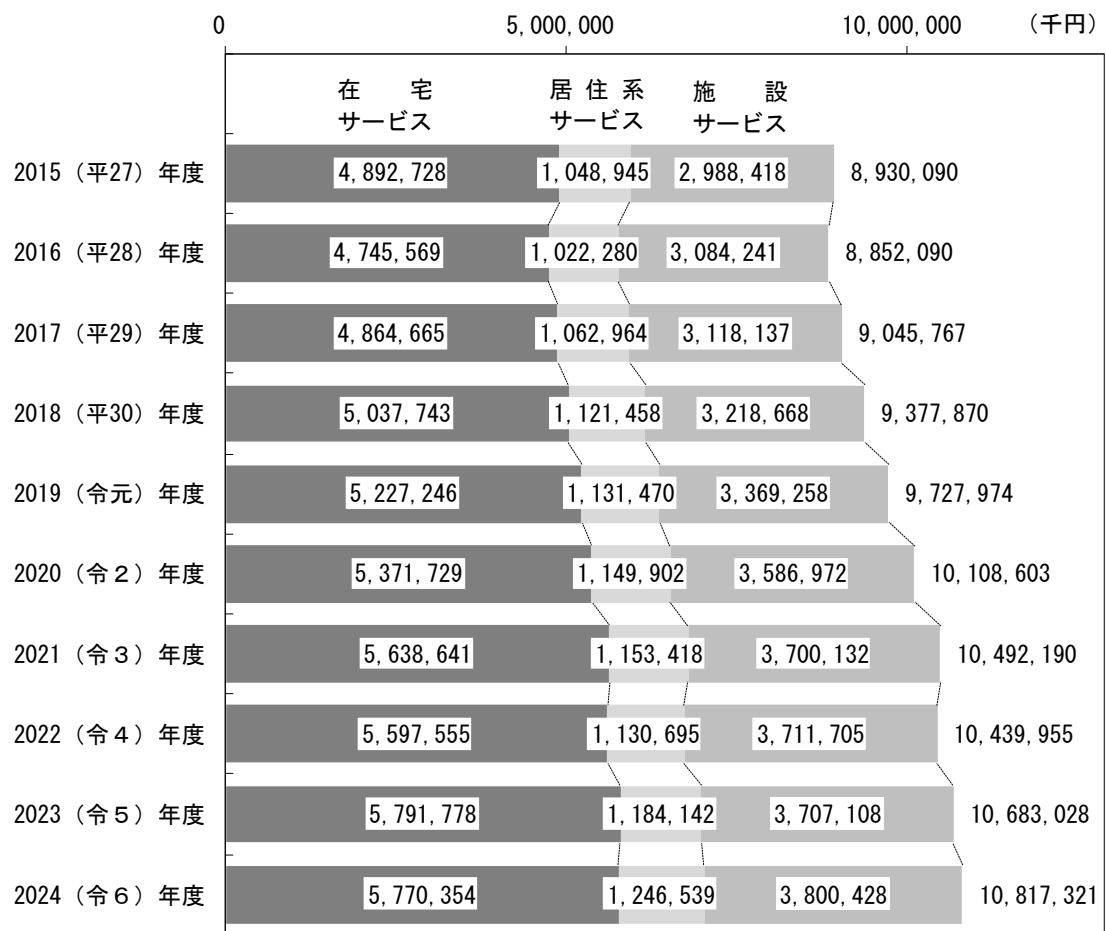
資料：2020（令和2）～2025（令和7）年は介護保険事業状況報告（各年9月末現在）、2026（令和6）～2075（令和57）年の本市は2025（令和7）年9月末時点の要介護度別、性・年齢階層別認定率をもとに推計

5 介護費用額の現状

(1) 介護費用額の推移

▶本市における介護費用額の推移をみると、年々増加傾向にあり、2025（令和6）年度では10,817,321千円となっています。

図表 23 介護費用額の推移

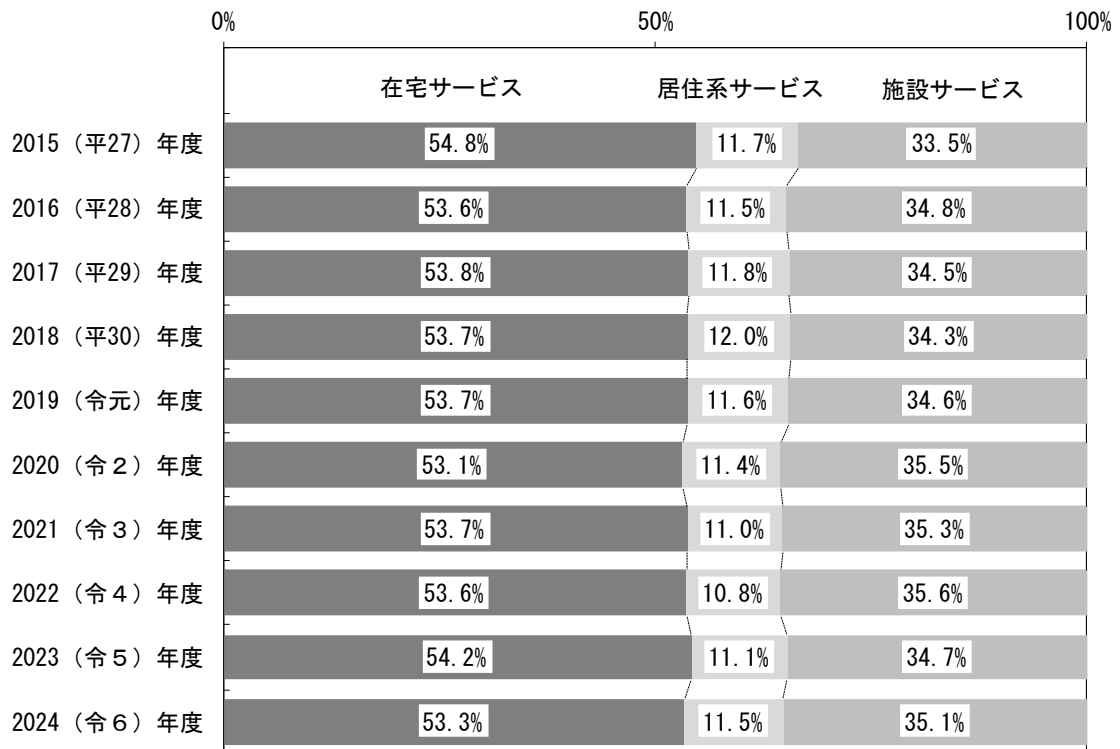


注：補足給付は費用額に含まれていません。

資料：地域包括ケア「見える化」システム（2026（令和8）年2月27日取得）

▶サービス区分別の構成比の推移をみると、大きな変化はみられず、2024（令和6）年度では、在宅サービスが53.3%、居住系サービスが11.5%、施設サービスが35.1%となっています。

図表 24 介護費用額サービス区分構成比の推移



資料：地域包括ケア「見える化」システム（2026（令和8）年2月27日取得）

(2) 第1号被保険者1人あたり給付月額

▶本市における2025（令和7）年の第1号被保険者1人あたり給付月額は、在宅サービス、施設・居住系サービスともに全国及び三重県より低くなっています。

図表 25 第1号被保険者1人あたり給付月額の状況（全国・県との比較）

単位：円

区 分		合 計	在宅サービス	施設・居住系サービス
第1号被保険者1人 あたり給付月額 2025（令和7）年	全 国	25,304	13,570	11,734
	三 重 県	25,833	14,276	11,557
	桑 名 市	21,698	11,467	10,231
調整済み 第1号被保険者1人 あたり給付月額 2023（令和5）年	全 国	20,681	10,755	9,926
	三 重 県	21,940	11,896	10,044
	桑 名 市	19,343	10,159	9,184

注：「調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額」とは給付費の多寡に大きな影響を及ぼす、「第1号被保険者の性・年齢構成」と「地域区分別単価」の影響を除外した給付月額

資料：地域包括ケア「見える化」システム（2026（令和8）年2月27日取得）